

2018年1月21日 礼拝メッセージ

聖書：第一列王記6章1～13節

説教：もし命令を守るなら

はじめに

ダビデは、ソロモンを自分の後継者に指名して間もなく天に召されました。後を託されたソロモンには国を治めるという経験がありません。また後ろ盾もなければ、相談できる人もいない。悩んでいたとき、神から何が欲しいか願えと問われ、「善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください」と答えたところ、これが主の御心にかない、願いどおりに知恵が与えられます。

その知恵が最初に発揮されたのは、父ダビデが果たすことのできなかつた神殿建設事業を進めるときでした。主がダビデに語っていた約束をソロモンは覚えています。「あなたの身から出る世継ぎの子が、わたしの名のために一つの家を建てる。」(2サムエル7章12、13節)これを素直に読めば、ダビデから出る世継ぎのことは自分のことを指すように見えます。でも、ほんとうにそうなのか。そのことを確かめてからでないかと絶対に手を出すべきではない。彼はそう考える。では、どうやって確かめるか。神殿を建てようとするとき二つ問題があった。材料が足りないということと、職人が足りない。もし御心ならばこの二つが解決されるだろう。そのことを祈っていたとき、イスラエルの北隣にあるツロの王ヒラムと親しくなる機会があったので、神殿を建てたいと思っているのだが、木材と職人を送っていただきたいと助けを求めます。そうするとヒラムは、「主は智慧ある子をダビデに授けられた」と言って非常

に喜んでくれた。これでソロモンは、自分が神殿を建てることは主の御心であるがわかり、事業をスタートさせていくことになりました。

その神殿はどのようなものであったのか。そして神殿は、私たちにとってどんな意味があるのか。そのことを考えてまいります。

1 エジプトを出てから480年目に建設着手

1節を読みます。「イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンがイスラエルの王となってから四年目のジブの月、すなわち第二の月に、ソロモンは主の家の建設に取りかかった。」

私たちは、目で見えるものがすべてで、目に見えないものは存在しない、そのように考える世界に生きています。この時代、「目に見えないものがある」と言うのと、「オカルト」のような扱いをされかねません。しかし聖書の世界では、目に見えるのと同じように目に見えない世界が存在することを当然の前提としています。

ソロモンが建てようとしている神殿はもちろん目に見えるものです。でも目に見えるものがすべてではない。目に見えないものが背後にある。神殿を建設するにあたり、そのことが四百八十年前のエジプト脱出と関係しているかのように、わざわざ記録しています。ソロモンにとって、目に見ることのできないはるか過去の出来事です。それでも関係があると言っている。いったいどんな関係が

あるのでしょうか。そのことはまた後で触れたいと思います。その前に、神殿の構造について確認しておきたいと思います。

2 神殿の構造 1 キュビト=44.5cm

1) 長さ、幅、高さ

2 節です。「ソロモン王が主のために建設した神殿は、長さ六十キュビト、幅二十キュビト、高さ三十キュビトであった。」少し飛んで5 節も読みます。「さらに、神殿の壁の回り、つまり、本堂と内堂の回りの神殿の壁に脇屋を建て増しし、こうして階段式の脇間を造りめぐらした。」その他にも細々と神殿の構造が説明が続きます。ことばを読んだだけでは、実際どんな建物なのかなかなかイメージしにくいので、週報にイラストを載せておきました。一つは建物全体の絵です。もう一つは、脇間の様子が見えるようになっている絵です。

一キュビトというのは、中指の先からひじまでの長さで、およそ四十四、五センチメートルだと言われます。神殿の大きさをメートルで換算するとざっとですが、長さ二十七メートル、幅九メートル、高さ十三メートル。

モーセの時代には幕屋というものがありました。調べてみるとソロモンが建てた神殿は、ちょうど幕屋の縮尺を二倍にした大きさになっています。いっそのこと十倍とか二十倍にしてもよかったです。中央教会の建物と比べると、高さは違いますがほかはやや大きい程度です。神殿にしては意外に小さい。絵を見てわかるとおり、石を積んでいるだけですから実に簡素です。

ソロモンの力であれば、こんなものを建てるのは経済的にも、技術的にも簡単ではないか。そう思う。ところが中身を見ると驚きま

す。次回見ていきますが、中はイスラエルでは貴重であった板材と金箔で覆われている。外から見える部分は実に質素ですが、見えなところは非常に高価なもので造られていた。これがイスラエルの神殿でした。

2) キリストのからだ

ソロモンの時代からおよそ九百五十年経ってから来られたイエスは、建物の神殿を指さして言われました。「これを壊してみなさい。私は三日で建てよう。」建物としての神殿がイエスのからだだと強く結びついていることを、このようにして教えてくださいました。そうしますと、ここに神殿の構造のことが細々と書かれていますが、これはイエス・キリストのからだのことを書いていることにもなる。いったいどういうことなのか、細かなことはわかりません。研究者も触れていない。しかし、一つのことは言えるように思います。

日本にはたくさんの神社があり、お寺があります。最近では新興宗教も盛んで、総本山の建物があります。写真で見るといずれも非常に大きく豪華なものでした。しかし聖書ではどうか。この世界を造られた神がおられる神殿にしては、意外に小さい。そして意外に簡素です。

3 主の約束

1) 「この神殿については」

これは私たちに何を教えているのか。その糸口が12, 13 節のことばです。「あなたが建てているこの神殿については、もし、あなたがたわたしのおきてに歩み、わたしの定めを行い、わたしのすべての命令を守り、これによって歩なら、わたしがあなたの父ダビデに

あなたについて約束したことを成就しよう。わたしはイスラエルの子らのただ中に住み、わたしの民イスラエルを捨てることはしない。」

ここは、「あなたが建てているこの神殿については」と始まるのですが、後に続くことばとどうつながるのか、よくわからない。原文を見てもそう書いているので、こう訳すしかない、実に不思議な文章です。それでもわかることはあります。

ソロモンは神殿を建てようとしています。普通なら、こう思うでしょう。ソロモンは、神殿を一生懸命建てたので、神からたくさんのお恵みをいただいたに違いない。でもよく読んでください。神殿を造ったので、その褒美として約束を成就する、とは書いていない。ソロモンが主のすべての命令を守り、歩むならば約束を成就すると言っている。だからと言って、神殿を建てることは関係がないとも言っていない。ソロモンにとって神殿を建てたからすべて終わりではない。神殿を建てるのと、主の命令を守り行うこと。この二つはまるで車の両輪のようにつながっている。どうもそういうことらしいのです。

2) エジプト脱出と神殿建設

1節で、神殿を建て始めたのはイスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目の時であったとわざわざ記していました。エジプト脱出と神殿がどんな関係があるのか。そのことを脇に置いたままでした。

モーセの時代、契約の箱は会見の天幕と呼ばれる、移動式テントの中に置かれていました。でもいまは神殿が建てられ、そのなかになんとかしっかりと置かれていきます。石で造られた建物ですから、頑丈です。これで安心。神が

イスラエルとともにおられることが、ますますはつきりとわかるようになった。そういうことは言えるでしょう。エジプト脱出とソロモンの神殿はそういう意味でつながっています。さて、これで主は永遠にともにおられる、と手放しで喜ぶことができるのか。

3) もし、命令を守るなら

確かに主はそのようなことをソロモンに約束しています。でも条件があります。もし主の命令を守り行うことができたなら、とある。では、できたのか。残念ながら彼はできなかった。外国から迎えた妻たちが信じていた神々をソロモンもいっしょに拝むようになります。そうすると、12、13節の約束はどうなるか。ソロモンは主の命令を守れなかったのですから、約束したことは成就しないはずです。主がイスラエルのただ中に住むこともない。イスラエルを捨てるはずです。

事実はどうだったか。確かにソロモンのことからイスラエルは神にそむいていき、その結果国は分裂し、滅ぼされていきます。人々は、補囚となって外国に連れ去られていく。普通はそこで終わりです。ところが、主はイスラエルを見捨てません。ソロモンの時代からおよそ千年が経ったとき、神のひとり子である方が人となって来られて、イスラエルの中に住んでくださいました。その方が十字架におかかりになったときも。人の目には、実に小さく、みすばらしく見えました。イスラエルの王であるならば、もっと強く、もっと豪華で、目にまばゆいばかりに光り輝くはずだ。そう思っていた弟子たちは、十字架のイエスを見て一目散に逃げ出します。そのようにしてキリストのからだである神殿はこわされます。しかしその後どうなったか。「三

日でそれを建てよう」と言われたとおりに、主は三日目によみがえりました。

最後に考えます。ソロモンが約束を守ることができなかったのに、なぜ主はイスラエルに住んでくださったのか。主はソロモンに語りました。12節。「あなたが建てているこの神殿については、。。。」ソロモンに語っていると同時に、ダビデの世継ぎとしてこられたイエス・キリストにも語っている。ソロモンは守れません。でも主は最後まで父なる神の命令を守り行ってください。だから主はイスラエルに住んでくださるのです。これが救いです。ソロモンは自分の罪を自覚しています。そのため、いずれこの神殿は崩されることも知っている。しかし主が永遠に崩されることのない神殿を建ててくださると信じます。

ソロモンがそうであったように、私たちも主の約束を守ることができません。罪のからだのなかに私たちは閉じ込められ、奴隷になっています。みなそこで悲しんでいます。その悲しみを主は知っておられます。からだの中に罪が宿っています。そこで、キリストのからだは十字架で処罰されていく。その神殿は主が再び建ててくださる。そこに救いがある。そのことを信じてまた新しい一週間を歩んでまいります。